

産業革命と人心の動搖

法學博士 上田貞次郎

私のやうな者が出て財團法人明治聖徳記念學會に御話を致す資格があるかどうかといふことを疑つたのでありますが、會の報告などを拜見いたしました所が、廣く日本の歴史なり國民性なりといふものを御研究になる會で、而かも之を學問的に研究される會であるといふことでありまして、其中には經濟史といふやうなことも掲げられてあるやうに承知いたしましたので、それでは何か申上げて見ようかといふ考になりました。そこで題は産業革命と人心の動搖といふことに致して置きましたが、餘り一般的の御話を申上げますといふと、取留めのないやうなことになりますので、寧ろ實際に起つた事實を御話する方が宜くはないかと思ふ。そこで今晚は英吉利に於て産業革命といふ大變動が起り、之に續いて人心に動搖を與へたといふことを申上げたいと思ひます。

産業革命といふ言葉は吾々經濟學なり經濟史なりを研究して居る者に取つては大体決つた意味を有つて居ります。勿論革命と申ししても政治上の革命ではない、即ち王朝を覆すとか、或は市街戦をやるとか、爆裂彈を投ずるとかいふ意味の革命ではない。産業革命と申しますと、一國の産業組織の上に非

常な根本的の變化が短い間に起つたといふことを申すのであります。それで而かも所謂産業革命と申しますといふと、十八世紀の半ば過から十九世紀の初りに掛けまして英吉利に變つた所の大變化を先づ産業革命と申します。それと同じやうな變化が其後に他の歐羅巴諸國なり又現に日本に起りました。それも時として産業革命と呼ぶことがある。本來を申しますといふと、唯今申しました英吉利の産業革命なのであります。それでどんな變化が起つたかと申しますといふと、先づ此時代即ち千七百六十年から千八百三十年頃の間、大凡六七十年の間に、英吉利の社會狀態が一變しまして、其變り方は前の農業本位時代から後の工業本位の時代に移つて來る。それからして前の時代は大體貴族的國家主義とでも呼ぶべき理想に依て國が支配されて居つたのが、其後には平民的な自由競争といふ主義に依て支配される時代になつた。歐羅巴で佛蘭西なり英吉利なりといふやうな國民を基礎とした國が本當に出來て、さうして之が軍事の上なり政治の上なり又商業の上なりに於て競争をして所謂列強の角逐といふ現象が起つて來たのは十六七世紀と思ひますが、其頃からして産業革命時代になるまでの間、一寸二百年位の間、英吉利はどういふ社會組織になつて居つたかといふと、昔から續いて居つた封建的の貴族其人達は非常な廣い土地を有つて居る地主である。此大地主とそれからして百姓、之が社會の主たる要素である。其大地主の下に又中地主もあります、中地主の下に小地主もあります。それから純然たる百姓小作人なり農業労働者といふ者もあります。が私の今御話します産業革命の起り掛つた時代には小地主といふ者は英吉

利には殆ど無くなつてしまつて居つた。それで中地主が地方の有力者であつて、さうして其下に小百姓農業労働者といふものがあつた。それで之を支配するには矢張り英吉利の中央からして色々の規則法令を出して之に合ふやうにさうして居つた。詰り英吉利の國策といふものは中央の權力が之を握り、さうして社會一般の者は其國策に嵌り込むやうにされて居つた。之に依て英國の秩序が保たれ、又外部に對して國力が延びるといふやうな事になつて居つた。之を私共經濟學の方ではマーカンテリズム、商を重んずるといふ名前で重商主義と呼んで居りますが、別段商業を重んじて農業を軽く見るといふ意味ではない、寧ろ國家的に全体の經濟力を支配し調節して行く、斯ういふ意味なのであります。さうして外部に對するのであります。それでありますからして例へば此職人のことにしましても、子供の中からして何年間か、例へば英吉利は七年間なら七年間奉公を勤める、それが終ると一人前になる、それが終ると親方になるといふことが、法律でちやんと決めてある。賃銀がどの位といふことも、是は其時々々に依て變つては行きますが、併し決める。時としては麵包の値段が幾らといふことも官の命令に依て決めることが出來た。斯ういふ工合に物の價格或は賃銀といふことまでも一つの法律規則に依て之を決めて行くといふことである。是は佛蘭西では全く役人の仕事になりましたし、英吉利では寧ろ地方的の豪族、先刻申しました中地主である、それが取扱ふことになつた。此中地主といふものは同時に議會の選舉權、被選舉權を有つた居つて、軍人になるにも其人達から出て行く、法律家も其中から出て行く、地

方官も其中から出る、地方官は自分の生れた土地を支配するのでありますから、中央から派遣された地方官よりももう一層土地に着いたものである。さういふ工合になつて居りましたので、議會政治とはいふものゝ矢張り貴族的の議會政治であつた。ところが此産業革命以後に於ける事情といふものはさうではない。今の賃銀とか物價とかいふやうなものは総て各人の自由活動の中に自然に生れて來る經濟學で申します需要供給の原則、需要があれば高くなるし需要が減れば廉くなる、供給があれば廉くなる。供給が減れば高くなるといふやうな、さういふ自由競争に任せて彼此干渉しない。それですから前には重要な産業であるから國が特別に保護をする。例へば織物といふものは重要なものである。英吉利には澤山の羊が飼はれて羊毛が出來るが、此羊毛の儘で外國に輸入してしまふといふやうなことは國の利益でない、羊毛の輸出を制限してさうして之を織物にして出すやうに政府が干渉してやるといふやうなことを前にやつて居たのが、其後にはさういふことをやらぬ、總ての人が自分の利益を最も能く知つて居つて、自分の判斷に任せて自分が宜いと思ふものをやればそれが一番國の資源を活用する所以であるのだから、是は自由に任せて行く、斯ういふ風に世の中が變つて來た。それでさういふ風になつて來たかと申しますと、今の産業革命といふ事實がそれを齎した。どんなことを産業革命と申しますかといふと、直接に起つたことは機械の發明である。蒸氣機關を初めとして紡績機械、織布機械、人間の生活を支へるもので一番大切なものは食物でありませうが、是は餘り加工せぬで出來るものであります

から、工業の最大のものは何れの國でも纖維工業です。此が機械的にやられるやうに變つた。從來の職人の制度はもう實行が出来なくなつて、それで重商主義に依て居つた物價調節、職業調節、總てのことを國の力で調節することは捨てられてしまつた。自由のやり方になつてしまつた。どんな風にして其機械の發明や何かと出來たかと申しますといふと、もう是は十八世紀の初めから、或はもつと前からあります。科學的に物を考へる、理窟を考へるといふことが段々進んで參りまして、傳統に盲従しない先祖から言傳へられたことに盲従しない、新しい經驗なり新しい推理に依て新機軸を出すといふことを遠慮なくどしどしやるやうになつた。是は學問の上に於てもさうである、政治の上に於てもさうであります。それから實業上に於ては矢張り合理的の理窟に合つた經營法といふことになつた。理窟に合つた經營法とはどんなことかといへば、出来るだけ少い勞力を以て出来るだけ大きな結果を得る、所謂經濟的原則といふものに合ふやうな生産方法をやるといふに外ならない。其點からして彼の分業といふことを考へ出した。分業といふことは獨り社會に於て色々の分業が對立するのみならず、又其一つの事業の内部に於て分業をやる。吾々の學問經濟學の先祖はアダムスミスといふことになつて居りますが、アダムスミスの國富論の一番初めに書きましたことは、やはり分業である。留針を拵へる時分に、昔の職人は針金を針にするまでの仕事を悉く一人でやつた。其アダムスミスの時代に分業といふことが段々進んで來て、さうして一つの工場の中で針金を切る人、針金を切つたやつを磨く人、或は先きを尖らせる

人、或は頭を附けると、或は最後に磨きを掛ける人と手配をしてさうしてやる。之が即ち生産の能率を擧げるのであるといふことを書いて居ります、近頃亞米利加で以て科學的管理法などいふことを唱へる人があります。日本などにも又其方法が傳はつて參り、隨て能率であるとかエフィシエンシーなどいふことが一つの流行の言葉になつて居りますが、其は必ずしも今に始つたことではない、昔からやつて居る。分業を進めるといふことは能率を高めるといふことである。さういふやうな考からして木綿糸を一本づゝぶん／＼車で引いて居つたのが一遍に十本引くとか十二本引くとかいふことは出來ぬものかといふことを考へる。餘り精しく申上げますと時間を取りますから略しますが、さういふ機械を考へ出して人が造る。是の初めは足踏器械か何かでやつて居つたのを水車に掛けて引く。水車に掛けて大きな仕掛でやるゝとなると、どうしてもばら／＼に分けて居つてはいけませんから、一つ所に澤山の人間を集めてさうしてそれで働かせるといふことになる。即ち今日申します所の工場制度といふものはそこで始めて出來て、更に進んで之に蒸氣力を應用するといふことになりまして、水車の場合と違ひまして、水流の無い所でも今度は出來る。平地であつて石炭を持つて來るに都合の宜い所ならばどし／＼出來るといふことになりますから、そこで石炭の便利の宜い所に工場が出來る。而かも山の中と違つて澤山の工場が集つて此處に都市を拵へて工場都市といふものを拵へるといふことになつて來ます。之が其當時起つた大變化であります。從來ならば百姓の家で以てぶん／＼車で女子供が糸を引いて親父は機を織る。向

ふのは機が幅が廣うございまして男の方でなければ織れませぬから親父が織る。斯ういふ工合で裏に少しばかり畑を作るとか、或は牛を一匹飼ふとかいふやうなことで、農工兼帯で農村の仕事をやつて居つた。之が都會に集中して來た。一番初めには紡績といふことが工場の仕事になつて、後には織るといふことも工場の仕事になつて集中して來る。斯ういふ工合で田舎の人口が都會に集つて即ち農業本位であつた所が工業本位になつた。それで大仕掛な工業が起つて來ますといふと、昔からの規則は邪魔になります。昔は人民に教へる積りで、人民の能率を進める積りで政府が掛つただけけれども、今度はさういふ新機軸が起つて來ますと、昔の制度は邪魔になる。一軒の家には徒弟を何人以上置いてはならぬといふことがあつたのでありますが、そんなものは邪魔になる。何人でも連れて來なくてはならぬといふことになつた。さういふ工合でありますから段々明文を廢してそれで後とは自由競争に任せると斯ういふことになつて來た。それで唯今纖維工業に就て申しましたが、それを初りとして色々の工業に其式がずつと傳播しまして、殊に鐵道とか汽船とかいふやうなものが發明されました、昔地方々々で別々に拵へた規則は行はれない、世界中に物資の有無相通するといふ所謂貿易が盛んに起つて來ました。昔の規則ではいけない、それで總て之を自由競争に任せるといふことになつた。さういふ譯で前とは非常に違つた世の中が茲に現れて來た。之を組織する所の分子に就て考へて見ますと、元は社會を組織する要素が地主と百姓とでありましたが、今度は産業革命の終つた後にはどういふものがあるかといふと、地主、是

は相變らず世の中を支配する所の支配階級に屬する。併し其他に實業家といふ階級が現れて來た。詰り町人であります。それから他の一方には勞働者といふ者が現れて來ました。昔だとして百姓は勞働する者には違ひありませぬが、併し昔の百姓は自分の家位は有つて居る、先刻申しました通り小さな畑や牛一頭位は有つて居る、少くとも小作の株を有つて居るといふ位のものであつた。勞働者と雖も據り所のある安定した基礎のある人間であつた。ところが後に起つて來た工業勞働者といふ人はさうではない。雇主との關係と雖も全く金錢上の關係で、幾らで以て雇はれよう、幾らで以て雇はう、斯ういふ關係でありますから、用がある時には雇ふし用が無い時には何時でも廢める、斯ういふ譯で前の勞働者とは非常に違つた賃銀勞働者、賃銀で働く所の勞働者になつた。自分の資本は何も無く單に身体だけ持つて行つて雇はれて働く、斯ういふ人になつて來た。職人も昔からありましたけれども、昔の職人といふものは自分の店を有つて居る、自分の道具を有つて居る、自分が獨立して拵へた物を賣るのでありましたが、今の職人はさうでない。尤も昔し風の職人も多少は殘つて居りますが、大多數の工業勞働者はさういふ人ではない。身体だけ持つて行つて雇はれる人である。斯ういふ人が何萬何十萬といふ數で現れて來る。それからして實業家といふ者はさういふ風にして出來たかといふと、是も昔は無いことであります。殊に英吉利は十七世紀頃から植民地も開拓して居りましたし、外國貿易も相當あつたのでありますが、此外國貿易等に於て大きな金を儲けるといふ人も無論あつた。さういふやうな人が富王侯を凌ぐ、

のみならず王侯と婚姻を通して成金が忽ちにして男爵の娘を嫁に貰ふとか、或は成金自身が男爵になり伯爵になるといふことも十七世紀からやつて居つた。外國貿易其他で金を儲けた人は田舎に行つて土地を買つて地主になつて紳士の交際をする、又代議士にもなる。代議士になるといふことは英吉利では昔から傳へられた高尚なる仕事である。さういふ風にして紳士の資格、貴族の資格を得るといふことになつて來た。さういふ工合にして町人の勢力といふものは産業革命以前に於ても段々延びては來て居つたのでありますが、併しそれは町人としての勢力ではない。寧ろ町人が貴族化して然る後に勢力になるといふことであつた。ところが機械の發明、鐵道の敷設といふやうなことに依て大規模の商工業といふものが盛んに起つて來ましたからして、今度は成金の數も盛んに出來て來た。富も非常に強くなつて來た。それで昔から有來つた貴族と對抗する階級が一つ出來て來た。さういふ譯で此社會を組織する所の要素といふものが非常に變つて來た。之が今日の社會組織の初りと見て宜からうと思ふ。今日いふ所の勞働問題であるとか、或は勞働問題の中にも資本と勞働との争ひ、ストライキといふやうなこと、或は工場法を以て其工場を取締る、或は普通教育を以て一般に無料に義務的に教育をやらせるとか、或は普通選舉をやるとかいふやうな問題が今日やかましい問題になつて居るのですが、それは今の實業家對勞働者といふ關係が起つて來てから之に附帶して起つて來た問題である。斯う考へて先づ大体誤りはなからうと思ふ。

これは産業革命といふことの大体の御話であります。之に引續いて人心の動搖を引起す。私は今日日本の人心の動搖といふものは矢張り日本に經濟の大變化が起つて居る、詰り當時英吉利に起つたやうな産業革命が今日日本に起りつゝあるので、之に伴ふ所の現象と思つて居りますが、其人心の動搖が當時の英吉利にも矢張り起つた先刻申しましたやうに機械を發明し大規模の商工業をやるといふことは、舊時のやり方よりも能率が高まるからやるのであつて、此産業革命に依て、英吉利の富は非常に殖えた。殊に佛蘭西の革命に引續いてナポレオン大戦争が二十何年間も續いたので、此大戦争に英吉利は勝つて居りますから海外には植民地の領土を確實に取ることが出来る、之に伴つて英吉利の製造品がどん／＼輸出をすることになつて、英吉利が商工業の覇權を握つたといふのは其時のことで、國の地位は上り國の富は盛んに殖ねるといふ景氣の好い時代であります。之と同時に今の工業労働者といふ新しい階級が出來て來て、此労働者の生活状態が非常に悪くなつたのであります。カーライルが後に言つた言葉であります。英吉利は財布が一杯になつた、フルバースを有する國になつたが、救貧院も亦一杯になつた。フルブーアハウスを有つ國になつたと、かういふ事情になつてしまつた。國の富は増して居るけれども富の分配が不平均になり、富を得る者は富者になるが當を得ない者は貧者になる。そこで社會主義者などは近世の資本主義即ち産業革命に孕まれた所の新しい大規模の商工業の結果は富者益々富んで貧者益々貧になると斯ういふことをいふのであります。尤も此言葉其儘で受入れてはならぬ、富者益々富む

は宜いが、貧者益々貧ではない、貧者は幾らか良くなつて居る。國の富が殖えると同時に貧者も幾らか良くなつて居るが、貧富の懸隔が大きくなり殊に此當時の英吉利といふものは今日の日本と違ひまして違ふ事情は色々あつたのでありますが一寸申して見ますならば、農業の組織が非常に違つて居る。先刻申すやうに小百姓といふ者が無くなつてしまつたのであります。それは大百姓が大農法で組織的のやり方をするものでありますから、小百姓が競争に負けてしまつて、殊に村に入會地がありまして、其處へ行つて牛を放して置くとか、或は入會の森から薪を取つて來ることが出來ましたが、入會地も皆合理的の農業を始めたものでありますから、百姓が困つて都留地に來て勞働者になつたから益々彼等の生活の程度が落ちるといふことになつた。是は當時の英吉利の特別の事情でありまして、日本にはないことであります。それから其當時の英吉利は、大戦争の後で非常な經濟上の負擔を負うて居つたのみならず、其當時の租税の制度が非常に悪かつたものでありますから、此負擔が貧乏人の方に非常に重く掛つて來たといふことがあります。それから尙ほ其他に戦争中は非常に景氣が好くて賃銀なども高かつたが戦争が終つてから、それが出來ない爲に悪くなつた。而かも不換紙幣の國になつたものでありますから、物價が非常に動搖しまして、其爲に勞働者の境遇が非常に不安定になつた。此不安定といふことは前申した通り當時の英吉利に於ては戦争の結果貨幣制度の悪かつたこと等に依て非常に助けられた。それ等は英吉利の特有の事情であります。併し乍らさういふ特有の事情がなくても不安定になるいふことは産

業革命の起つた國には當然起つて来る。何故であるかといふと、前には自分の一家で自給自足の出来る者が多い。田舎で農村生活をやつて居る時分には自給自足を爲し得る範圍が廣い。外部から買ふとか外部に賣るとかいふことが比較的少くて済む。ところが都會生活をやればさういふ譯に行かない。自分の働きて拵へただけのものは外へ出て行く。労働者などは初めから自分の物はない。工場に出て行つて人の物に加工して居る。出来上つたものは人の物である。得る所の物は賃錢で買はなければなりません。世に總ての物が市場の景況如何といふことになります。彼等の生活が豊富になるのも貧弱になるのも是は世の中の景氣の上り下りといふことに依て決する。而かも自由競争で、需要供給の經濟關係で決めて行く場合には、或時には物が出来過ぎ、過剰生産が出来ることが起る、恐慌があります。不景氣があります。不景氣の時には金持は金を損する。金の無い労働者は自分の職を失ふ。職を失へば喰ふことが出来ず。不景氣の時には不安定な生活といはねばならぬ。農村に居つた時の生活よりは幾分豊富であるとしても、是は非常に不安定な生活といはねばならぬ。農村に居つた時の生活よりは幾分豊富であるとしても決して安定ではない。景氣が好い時には仕事があるからといつて町に出て来る。相當の賃銀も取れるから甘い酒も飲めるか知れぬが、不景氣が來ると職を失ふ、斯ういふ不安定な状態になつた。斯ういふ状態でありますから前の農村に居つて貧弱ながらそれと諦めを付けて生活して居つた時と違つた心理状態を以て来る。昔の百姓ならば一にも二にも地主さんに持つて行つて夫婦喧嘩の仲裁までして貰ふといふ状態であつたものが、今度はさういふ状態では追つかぬ。自分達が団体を組んで賃銀の談判をするこ

か、或は失業の時に於ける待遇に就て談判をするといふことになつて、詰り勞働する人間の境遇が前と後とは非常な違ひが來ようとして居る。それで彼等の思想がどんな風に動いて行つたかといふと、是は非常な不平であります、ナポレオン戦争が終つてから十九世紀の真中頃までの間、三四十年の間といふものは英吉利の下層社會一般に非常な不平を有つて居たのであります。ストライキも度々起りますし、其ストライキは大抵險惡なストライキで暴動化する、普選運動なども起つて十何年間朝野を騒かした不景氣になると必ず運動が起つて暴動化する。さういふことが度々起つた。特に食物の高い時にこれが起つた。日本ならば米騒動であります、向ふでは麥騒動、麵包の高い時に起る。それが普選運動とか何とかいふ名前を取つて來ますが、併ながら生活困難の時に猛烈になる。それで千八百四十四年に獨逸の社會黨の先祖である所のエンゲルスが英吉利の工場を視察して書いた本がありますが、それを見ますと工場都市の衛生の悪いこと、非常に住宅が拂底してそれが爲に風紀なり衛生の上に悪い影響を起して居るといふことを書くと同時に、彼等の沸騰しつゝある革命熱を書いて、さうして彼は此次の不景氣の時即ち千八百五十年代には必ず英吉利に大革命が來る、政治上の大革命が來てさうして勞働者が資本家を亡ぼすやうになるといふことを明言して居ります。其位社會状態が悪かつた。革命的に悪化して居つた。幸ひにして此エンゲルスの豫言は中らなかつたので千八百五十年頃から非常な平和な時代が來ました。それでさうして之が平和の時代になつたかと申しますと、是は色々な事情があると思ひます、先づ

景氣が大變好くなつて來た、一般の經濟界の景氣が好くなつた。其前にも景氣の好い時と悪い時がありましたが、景氣の好い時が短くて悪い時が長かつた。併し段々戦争が遠のいて來て貨幣の整理も出來る、税制の整理も出來る、さういふことになりましますし、それから又産業革命の大波瀾が爰で治まつたといふ意味でもある。例へば元ならば手織機をやる所の職工といふ者が非常に澤山あつて何萬といふものが手織機を職業にして居つた。之が紡績だけ盛んになつて手織機の職工が一時好い錢を取つたのであります。が、工場之力織機が盛んになつて賃銀が下るし生活に苦むことになつて之が革命熱の先鋒になつて騒いだ連中でありまします。普選運動などの眞先になつて騒いだ人間であります。其他に新しい機械の競争に苦んだ人間が澤山あります。而かもさういふ連中は段々にもう年が経ちましたから年を取つた者は死んで行きます、新しく生れて來た子供はさういふ古い職業は習ひませぬから今度新しい需要のある職業、例へば機械工といふ新時代に適應した人間になつて來ました。是で彼等の生活が幾らか安定になつて來て人心も隨て安定になつて來たものと思ひます。そこで今度は勞働者ではない支配階級の側は之をどう見るかと申しますといふと、先づ新しく起つて來た所の實業家階級、金持階級といふものは大体どうしても自由競争で行くより外に仕方がない、自由競争が一番宜いのであると、其當時の經濟學者のいつたことを其儘呑込んで之を主張したのであります。即ち各人が自分の利益を一番能く知つて居るのだから各人の自由に活動せしむるのが一番宜いのだと、それから彼等はデモクラシーといふことを唱へた。其デ

モクラシーといふのは総ての人間を平等にするといふのでなくて舊來の貴族に對する自分達の階級のデモクラシーです。從來地主でなければ代議士になることも選ぶことも出来ないといふ憲法であつたものを、之を變更して相當の資産を持つた者は、普選舉權があるといふことに改造を致さうとした。それに對して舊來の貴族黨は反對をしましたが、それを押退けてさういふ案を通過させた。其外昔は救貧法といふものが可なり先きに出來て居つて、貧乏人はそれで大分救はれたのでありますけれども、救貧法を寛大にして懶者を助けるなどいふことは宜くない方法であるといふので、救貧法なにかも之を改正をするといふやうなことをやつたのであります。之が詰り所謂自由主義の主張なのであります。それは先づ其時代の政治思想の主たる潮流になりました。一方舊貴族はどんな考を有つたかといふ是は餘り賛成しない、無論人間のことでありますから利害關係に就て賛成したこともありません、大體の關係に就ていふと、其主張を全部受入れることはしなかつた。矢張り國の權力を以て弱い者は助けて行き、此社會の上流にある者は其責任として一般の人民を安樂にさせるといふ責任がある、世話を焼かなければならぬものである、斯ういふ考で進みました。そこで丁度此革命熱の非常に沸騰して居た時分に、此形勢をどう處置するかといふことに就て、無論上流階級の人が案を立てました其時に、自由派の人は所謂自由貿易を以て之を救はうといふことに努力をした譯であります。其時分の自由貿易といふのは穀物の自由貿易であります。外國からして廉い麥が這入つて來るといふと、英吉利の畑が荒されることになる。戰

争時分には少しも外國から穀物が這入つて來ないで困つたからごん／＼内地で開墾して畑を拵へた。之を荒れさせることは出來ないから、戦争が濟むと穀物關稅を高くした。是は貴族の爲には都合の好いこととありますが、地主以外には都合の悪いことなのです。食物が高いのに困る人は先づ以つて勞働者である。それでありますから自由派の人、實業家、政治家は此穀物稅の廢止に依て時局を解決しようといふ案を立て、即ち穀物稅反對運動といふものを起した。それから貴族側の人、地主側の方はごん／＼運動を起したかといふと、是は工場法で、工場の生活といふものが非常に悪い、一番初めには救貧院に居る子供を澤山連れて來て、詰り日本せいへば田舎の極貧乏村の子供を驅り集めて來て、さうして紡績會社の寄宿舎に打込んで働かせるといふことを盛んにやつた。それで子供のことでありますから何も分らぬ、非常に長い時間働かせる、夜も働かせるといふことをやつた。斯ういふことが抑々人心動搖の本でありますから、是から改めなければならぬといふので、工場法を拵へて勞働時間を制限し、或は子供の勞働を禁止しようといふやうなことを唱へた。それから又後には都市衛生といふことも主として地主等が唱へた。實業家や成金連が自分さへ儲ければ宜い、周圍のことはごん／＼でも宜いといふ考でごん／＼田舎の人を都會に集めて、働かせる、家なども金儲けの爲に借家をごん／＼建てる、其間には道が非常に狭い路しかない、下水が不完全で始終濕けて溝の水が流れて居る、それで種々の傳染病が流行る虎列刺が流行つた。其次には窒扶斯が起つて居る、其時に何千人か死んで居る、斯ういふことで町の衛生の

設備をしなければならぬといふやうなことで、地主貴族は勞働者に對して、自分達が平等になつてやうといふ考はないけれども、其代り支配階級の責任として世話をしようとした。自由派の人は世話をするとはいふやうなことは餘計な話だ、併ながら彼等が相當の力を得て來るならば是と對等の取引することは辞せない。斯ういふことになりました。然るに此外に勞働側を代表する社會主義者がありますが、さういふ人達はゴツちにも反對だが、兩方共半分づつ賛成する所がありました。通常政治上に社會黨が一番左に居り保守黨が右に居つて真中に自由派が居る、としてある。けれども是は實は三つ巴の形を成して居る。或點からいふと貴族黨は世話をするので平等を許すのではない。社會黨は平等を要求するから之に反對をして居る。自由黨に對していつて見ると平等といふことを考へて居るけれども、社會の力を以て弱者を救ふといふことになる。自由黨は反對するといふことになる。でありますから三つの主張が三つ巴の形を成して色々の運動を起して居る。結局自由貿易論及工場法の制定といふことは社會黨の反對の結果として起つて來て居るが、解決の方法は違つて居る。ところが二つとも通つて居る。一年置かない間に二つの案が實現されるやうになつた。之が又人心の動搖を治める非常な大きな力になつたのであります。それで千八百五十年から今日最近に至るまで無論英吉利には革命といふことはありませぬし、又革命を目的として居る所の政黨といふものもありません。最近に至つては較々そんなことをいふ人もありますけれども、是は極微弱な勢力であつて殆ど論ずるに足らぬ。千八百五十年以來革命運動は無く、

なつて居る。それはどういふ思想が本になつて其平和を得られて居るかといふと、是は貴族主義よりは寧ろ自由主義の結果でさういふ風になつて居ると思ひます。カーライルなどいふ人は丁度今の革命騒ぎの時代に出て来て此安排では逆も世の中の安定は保てない、實業家は昔の大名の積りになつて萬民の爲に策を講ずるが宜しい、それで工場主と工場労働者の關係は主従の關係でなければいけない、所謂温情主義でなければいかぬといふことを主張して居る。さうして第一單に金錢關係で雇傭契約を律するといふことは宜くない、そのために不安定になるのだから雇傭の期間を非常に長くするが宜い、何かの法に依て雇傭期間を長くする、仕事が無いからといつて解傭するといふ、さういふ金錢一方のことは止めるが宜い、詰り昔に還るが宜いといふことをいつたのであります。是も其時代に於て勢力を見たのであります。併ながら大体から申すといふとカーライルの豫言は中らない、自由主義者の方の豫言が中つて來たのであります。併し是も全然中つたのでなくして所謂社會政策といふものが段々に行はれるやうになつて來たのであります。今日の社會問題に對する英吉利の思想といふものは、一方に於ては労働者の自治といふこと、下層階級の人民が自ら自分を律してそれを作る爲に依頼する、同時に國家なり市町村なりといふものが相當の法律を以て社會の秩序を立てる、斯ういふことで先づ昔の三ツ巴になつて居つた形勢から見れば其當時の自由主義と社會主義とが少しづつ、這入つて今日の思想になつて居ると斯う思はれます。併ながら其當時を回顧して見ますと、保守主義者の力に依て時局を解決して行つた

といふことはどうしても認めなければならぬと思ふのであります。今の工場法の運動を起した人は殆ど大部分地主階貴族の人でありましたが、其頭になつた人はシャフツペリー伯爵といふで三百年來の名家であり、非常な家柄の宜い人でもあります。此人がさういふ運動に携はれば無論同族からも排斥されるし色々非難攻撃を受けたのであります。それにも拘らず生涯貧乏人の友とし、工場法運動なり又都市衛生問題なりに對して非常な力を盡した。其外さういふやうな人が多く出て來て此問題の解決に力を添へたのであります。それで今日社會主義者などが能く階級闘争といふことを申します。世の中の階級といふものは金持と貧乏人との二つに分れて之が始終闘ふ、其闘ふ結果として大革命が起つて金持は皆葬られてしまひ、貧乏人が代つて天下を取るやうになるのだと斯ういふことをいうて居る。階級闘争といふことは英吉利の革命時代には確かに起つて居る。起つて居るがそれで以て結局は大革命になつて更に破裂したかといふと、さうはならなかつた。ならなかつた理由は今申上げました通りであります。吾は産業革命に依て出來て來る社會組織に於てはどうしても階級の懸隔といふものがあり、階級的の反感といふものが起つて來ることは免れないことであらうと思ひます。唯それが如何に處理されて行くかといふことが問題であると思ひます。それで是は經濟問題であると同時に又大きな思想の上から、政策を割出して行かなければなりませんから、思想問題でもあると思ひます。日本に於ては現に今産業革命の現象が起りつゝある。殊に大戰争の間、非常に景氣が宜かつたといふことの結果として日本は非常に

工業化されて居ります。丸ノ内に非常な立派な大きな建物が出来たと同時に東京の周圍には非常な廣い貧民窟が出来て来たのであります。昔は吾々は下谷の萬年町とか芝の新錢座とかいふ所を貧民窟として知つて居つた。然るに今日は三河島とか王子とか、本所の大島の方にも出来て居る。如何にして此今日の形勢を處理して行くかといふことは、自由主義の方面からも亦保守主義の方面からも考へて相當の案を立つべき時代になつて居ると斯う考へるのであります。甚だ簡單でありますが此位に致しまして御質問でもございますれば御答申上げること致します。

花 園 天 皇

余聞、天生蒸民、樹之君司牧……苟無其方、

則不可處其位……是朕所以強勸學也。